

第一篇 日蓮大聖人 身延山御入山のこと

一、佐渡ご赦免

一日 四条金吾殿御返事（定遺 1800）

佐渡の島に放たれ、北海の雪の下に埋もれ、北山の嶺の山下風に、命助かるべしともをぼへず。年来の同朋にも捨てられ、

故郷へ帰らん事は、大海の底のちびきの石の思ひして、さすがに凡夫なれば、故郷の人々も恋ひしきに、在俗の宮仕

隙なき身に、此経を信ずる事こそ希有なるに、山河を凌ぎ、蒼海を経て遙に尋ね来り給ひし志、香城に骨を碎

き、雪嶺に身を投し人々にも、争か劣り給べき。又、我身はこれ程に浮び難かりしが、いかなりける事にてや、

同十一年の春の比、赦免せられて鎌倉に帰り上りけむ。

（弘安三年十月八日）